HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	ジェンダーによる罪と赦し ： ルカによる福音書7章37、38節を中心に
Author(s)	森, 真弓
Citation	基督教学, 36, 27-29
Issue Date	2001-06-29
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/46638
Type	article
File Information	36_27-29.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

研究発表要旨

ジェンダーによる罪と赦し
――ルカによる福音書七章三七、三八節を中心に――

森　真弓

ジェンダーの視点で聖書を読む作業が学問的に認められる現在の事実は80年代と比べると隔世の感がある。21世紀に入った今のわたしは聖書との対話の深さへの手応えで旅を続けている。ルカの「香油を注いだ女」の物語からその喜びの一端を分かち合いたい。

ルカによる福音書の「香油を注いだ女」の物語の特徴

四福音書は「香油を注いだ女」を語る。[1] ルカ以外の福音書にあるこの話は、男の弟子たちの憤慨とイエスが女をかばったこと、香油注ぎが埋葬の準備だという点が共通する。マルコとマタイでは女がイエスに賞賛される。共観福音書でないヨハネだけはこの無名の女をベタニアのマリアとしたが、女の無駄遣いが批判されている大筋は変わらない。

ルカは異なる。貧者への施しや埋葬の準備というテーマはなく、「罪深い女」が愛を認められて罪が赦された話に変わる。男たちは「足」「接吻」「涙」「髪」によって女の職業を連想する。「買」春という男の罪を不問にし、女の「売」春のみを罪とする背景が見えて来る。

ルカには借金を帳消にされた額の多い方が金貸しを多く愛する話[2]が挿入され、同様に多くの罪を赦されたこの女がイエスに多い愛を示したとされる。イエスも愛の多い生涯だったから、女がやはり預言者的な役割を果たしたことで他の福音書の話と共通するかもしれない。「愛」は輸入言葉としてあっても日常生活ではほとんど使わないから性的な秘め事に結びつき、愛の全体像から遠ざかる。それは当時と共通していて、ファリサイ人たちはイエスと女の性的に不道徳と見える関係に困惑したのではなかろうか。そういう意味ではルカは愛を男女関係のなかで直接的肯定的に捉えたと言える。

しかし福音書の女たちは男に従順で協力的で性的でない女か、能動的で性的で不道徳な女かのどちらかである傾向がある。高価な香油をイエスの足に注いだりする経済力のある大胆な女は罪深いと観る当時の偏見を考慮に入れれば、ルカが愛の大きさを表す方便としたこの女の物語は必ずしも「罪深い」女でなくてもよかった。

問題はルカ自身と当時の社会の限界にある。イエスの運動を支えた多彩な女たちを描きつつ、ルカは女を対等な「使徒」とは見ることができていない[3]。そしてそのような限界は現代越えられているだろうか。

深い悲しみを手放す[4] ――黙想的体験的省察

わたしにとって女が男と対等に扱われないのは痛みである。わたしは無視され評価されなかった年月を振り返り、この女に共感して悲しむ。わたしの経験した女のイメージは低かったので自分というものが信じられなかった。自分を低く見るとき神から離れてしまったので自分こそが罪深いと思ってきた。しかしそれに気づいたとき、わたしはこの悲しみを抱きしめることができるようになった。悲しむわたしを赦そう。わたしは他人の必要性に奉仕する女としての古い自分を手放そうとしているのだから、悲しいのは当然である。

わたしは親しさに飢えているので自分のために新しい選択をしよう。わたしはイエスに近づく。わたしの涙は彼の足の泥と共にわたしの心の泥も洗い流すだろう。わたしはイエスを愛するのでその足に接吻し続ける。わたしはイエスの悲しみに出会うだろう。彼は神の子としての命を手放そうとしている。何という深い悲しみ。オリーブ山で祈るイエスの「汗が血の滴るように地面に落ちた」[5]というではないか。だがわたしは知っている。イエスとわたしは神の支配する癒しのなかに共にいることを。だからわたしは彼の足に香油を注ぐ。これによってわたしは自分の深い悲しみをも手放してイエスの復活の証人となるだろう。そして「あなたの罪は赦された」、「あなたの信仰があなたを救った」[6]という言葉を自分のものとして、赦された人間の喜ばしい救いを生きることへと導かれるだろう。

(1)マルコによる福音書14章3～9節、マタイ26章6～13節、ヨハネ12章1～8節。
(2)ルカによる福音書7章40～43節。
(3)この辺の議論については森真弓著『癒しの共同体』(響文社　1999年)の172頁以下の「涙にくれる悲しみのなかの慰め」をごらんいただきたい。
(4)この部分も詳しくは上掲書の181頁以下参照。
(5)ルカによる福音書22章44節。
(6)同7章48、50節。